機密

帝國裁判所構成法草案

大隈

1294

114
A 2399

帝國裁判所構成法草案目次

第一編　裁判權　自第一條至第五條
第二編　裁判所及ビ檢事局　自第六條至第五十九條
第一章　總則　自第六條至第十三條
第二章　區裁判所　自第十四條至第二十一條
第三章　地方裁判所　自第二十二條至第二十六條
第四章　控訴院　自第二十七條至第四十五條
第五章　大審院　自第四十六條至第五十九條
第三編　裁判所及ビ檢事局ノ官吏　自第六十條至第百九條
第一章　判事又ハ檢事ト爲ルニ必要ナル

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

第二章　判事　自第六十條至第七十條
第三章　檢事　自第七十一條至第八十四條
第四章　裁判所書記　自第八十五條至第九十條
第五章　執達吏　自第九十一條至第九十九條
第六章　廷丁　自第百條至第百七條
第四編　司法事務ノ取扱　自第百八條至第百九條
第一章　開廷　自第百十條至第百四十一條
第二章　裁判所ノ用語　自第百一十二條至第百一十五條
第三章　裁判ノ評議及ヒ言渡　自第百一十六條至第百三十一條

第四章　裁判所及ヒ檢事局ノ事務　第百三十二條
章程
第五章　司法年度休暇及ヒ休日　自第百三十三條至第百三十八條
第六章　法律上ノ共助　自第百三十九條至第百四十一條
第五編　司法行政ノ職務及ヒ監督權　自第百四十一條至第百五十一條

帝國裁判所構成法草案

第一編　裁判權所及檢事局

第一條　裁判所ハ獨立ニシテ法律以外ノ權力ニ服從ス
ルヿ無シ

第二條　凡ソ裁判權ハ此法律ニ依テ設ケタル通常裁判
所之ヲ行フ但陸海軍裁判所其他特別裁判所及ヒ例外
裁判所ノ行フ裁判權ハ此限ニ在ラス

第三條　例外裁判所ハ戰爭戒嚴又ハ暴動ノ時ニ行フ爲
メ定メタル特別法ニ依ルニアラサレハ之ヲ設クルヿ
ヲ得ス

第四條　警察官ノ行フ裁判ノ權ハ違警罪事件ニ限ル但此權ハ當然裁判所ノ審問ヲ請求スルヿヲ妨クルヿ無シ

第五條　通常裁判所ノ裁判權ハ官吏又ハ國ニ對スル訴訟ニ付テモ之ヲ行フ但特別法ニ依テ裁判スヘキモノハ此限ニ在ラス

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院

第四　大審院

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ行政裁判所及特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トス

但シ殺人ノ罪ヲ組立テタル部分ニ於テ詔ヲノ事件ヲ審問裁判ス

第二編　裁判所及ヒ檢事局

第一章　總則

第六條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所

第二　地方裁判所

第三　控訴院

第四　大審院

區裁判所ヲ除クノ外ヲ合議裁判所トス合議裁判所ト

ハ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件

ヲ審問裁判スルモノヲ謂フ但訴訟法若クハ特別法ニ

時ニ
ヲサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取
扱ハシムルコトヲ得

第十條　檢事局ニ檢事總長檢事長檢事正ヲ合セテ相應
ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第十一條　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ總テノ往
復計算出納記錄其他此法律又ハ他ノ法律ニ特定シタ
ル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ右ノ如キ事務
ヲ取扱フ爲メ必要アリト認メタル時ニ限リ別ニ書記
課ヲ設クルヿヲ得但合議裁判所ノ檢事局ニ限ル

司法大臣ハ裁判所ノ會計事務ヲ專任スル爲メ特別官
吏ヲ裁判所ニ置クヿヲ得

第十二條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨ
リ發スル總テノ文書ヲ送達シ及ヒ裁判所ノ裁判ヲ執
行スルノ權ヲ有ス

前項ノ外其他執達吏ハ此法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ
職務ヲ行フニ任ス

第十三條　法律ヲ以テ特定セサル左ノ場合ニ於テ適當
ノ申請アル各ハ關係裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上
級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テカ本件ヲ裁判スルノ權ア

ルヤヲ裁判ス

第一　當然權限アル裁判所カ法律若クハ特別ノ事情ニ因リ差支アリテ裁判權ヲ行フヿヲ得ス且此法律第十六條ニ依テ代理ヲ命セラレタル裁判所モ亦同樣ノ差支アルトキ

第二　裁判所ノ管轄區域ノ境界確カナラサルカ爲メ其權限ニ付キ疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セサルノ確定判決ヲ爲シ又ハ確定判決ヲ受ケタルモ其裁判所ノ一裁判權ヲ行フヘキトキ

權限ヲ有セストノ

第二章　區裁判所

第十四條　區裁判所ノ裁判權ハ其裁判所ニ判事二人以上ヲ置キタルモ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ其裁判事務ヲ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ毎司法年度ノ終ニ臨ミ次ノ年度ノ爲メ判事中ニ分配ス

此事務分配ハ毎年地方裁判所長豫メ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ爲シタル事ハ裁判事務分配ニ從ヒ

其裁判所ノ他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フコトナシ

區裁判所ニ於テ判事二人以上ヲ置キタルトキハ司法大臣ハ其中ノ一人ヲ監督判事トシ其裁判所ノ行政事務ヲ委任ス

第十五條　事務ノ分配一タヒ定マリタルトキハ一人ノ判事ノ事務過多トナルカ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因リ久シク缺勤スル如キ繼續スル不都合ヲ生シタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ豫メ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但監督判事ノ職務ニ付テハ其裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

區裁判所ニ於テ法律若シクハ特別ノ事情ニ因リ差支アリテ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年豫メ之ヲ定ム

第十七條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ特ニ第二十九條ニ定メタルモノヲ除キ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

但反訴ニ關シテハ民事訴訟法ノ規定ニ從フ

第一　百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過

セサル物ニ係ル請求

第二　價額ニ拘ハラス左ノ訴訟

（イ）住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若シクハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若シクハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）不動産ノ經界ノミニ係ル訴訟

（ハ）占有ノミニ係ル訴訟

（三）雇主ト雇人トノ間ニ起リタル訴訟但雇期限一年ヲ超過シタル契約ニ係リサル以下ノ

（ホ）左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若シクハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

（一）賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ旅行手荷物ノ運送料

（二）旅店若シクハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル之ニ伴フ旅行手荷物金錢又ハ有價物

第十八五條　區裁判所ハ非訟事件ニ付キ法律ニ定メタル範圍及ヒ方法ニ從ヒ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

第一　未成年者瘋癲者白痴者失踪者其他法律若ハ判決ニ因リ自ラ事務ヲ執ルノ禁ヲ受ケタル者ノ後見人若クハ管財人ヲ監督スル事

第二　不動産及ヒ船舶ニ關スル權利關係ヲ登錄スル事

第三　商業登記簿船舶ノ登記簿及ヒ特許局ニ登錄シタル特許權意匠及ヒ商標ノ登記簿ヲ主管シ其登錄ヲ爲ス事

第十九六條　區裁判所ハ刑事事件ニ於テ左ノ事項ニ付キ司法裁判權ヲ有ス

第一　違警罪

第二　本刑五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二月以下ノ禁錮又ハ單ニ百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪

第三　刑法第二編第一章ヲ除キ其他ノ輕罪ニシテ本刑二百圓以下ノ罰金ヲ附加シ若クハ附加セサル二年以下ノ禁錮又ハ單ニ三百圓以下ノ罰金ニ該リ其情前號ニ掲ケタル刑ヨリ更ニ重キ刑ニ處スルコトヲ要セスト認メ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局又ハ豫審判事ヨリ區裁判所ニ移付シタ

ルモノ

右手續（前項ノ）ニ因リ訴追ヲ爲シ犯罪ノ證明アリタル場合ニ於テ判決ヲ爲ス前何時ニテモ其情第二號ニ掲ケタル刑ニテハ相當ニ罰スルコトヲ得スト見認ムトキハ區裁判所ハ之ヲ裁判スル權限ヲ有セサルトキ

トキノ言渡ヲ爲ス此場合ニ於テハ檢事ハ被告人ヲシテ相當ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケシムル爲ニ適當ノ手續ヲ爲ス

第十七條　（前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外）區裁判所ノ其他ノ權限ハ此章ニ掲ケタル事件ニ關スル特別法及ヒ訴訟法ニ之ヲ定ムル所ニ依ル

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

（憲兵將校下士）區裁判所ノ檢事局ノ檢事ノ事務ノ其地ノ警察官又ハ林務官ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得ル

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡區市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第二十三條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルニ在リ

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ

第二十四條　司法大臣ハ毎年各地方裁判所ノ判事一人若クハ二人以上ニ其裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事事件ノ豫審ヲ爲スヿヲ命ス

第二十五條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ毎司法年度ノ終ニ臨ミ次ノ年度ノ爲メ

各部及ヒ各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及ヒ部員ノ配置及ヒ所長部長部員ヲ差支アルトキノ代理モ亦毎年豫メ之ヲ定ム

以上掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及ヒ部ノ上席判事一人會議シテ之ヲ定ム此會議ハ裁判所長ヲ會長トシ過半數ヲ以テ議決ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年己レノ居ラントスル部ヲ指定スヘシ

第二十六條　或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法

年度ノ終若クハ休暇ノ始ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサル
モノハ裁判所長便利ト思量スルトキハ同部員ヲシテ繼
續シテ之ヲ結了セシムルコトヲ得
豫審判事ノ未タ終結ニ至ラサル事務ヲ結了スルトキ
付テモ前項ニ同シ
第二十七條　第二十五條ニ從ヒ事務ノ分配及ヒ判事ノ
配置一タヒ定マリタルトキハ休暇中ヲ除キ一部ノ事務
過多トナリ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其他ノ事故ニ因
リ久シク缺勤スル如キ繼續スル不都合アルニ非サ
レハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其現在ノ部ニ過多ナリト認ムル場合
ニ於テハ司法大臣適宜ト思量スルトキハ新ニ一部又ハ
數部ヲ設クルコトヲ得
第二十八條　地方裁判所ノ判事支差アリテ或ル事件ヲ
取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其代理ヲ爲シ得ヘキ
者ナキ場合ニ於テ其事件要急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其
管轄區域內ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其代理ヲ
命スルコトヲ得
第二十九條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ
付キ司法裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

（イ）区裁判所ノ權限又ハ第四十條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ總テノ請求

（ロ）金額若クハ價額ニ拘ハラス國ヨリ爲シ又ハ之ニ對シテ爲ス總テノ請求

（ハ）金額若クハ價額ニ拘ハラス官吏ニ對シテ爲ス總テノ請求

第二　第二審トシテ

（イ）区裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）区裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

区裁判所ノ權限幷ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル總テノ刑事訴訟

第二　第二審トシテ

（イ）区裁判所ノ判決ニ對スル控訴

（ロ）区裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定

メタル抗告

第三十八條　地方裁判所ハ破産事件ニ付キ一般ノ裁判司法
權ヲ有ス

第三十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ係ル區裁判所ノ
決定及ビ命令ニ對シ法律ニ定メタル場合ニ於テ爲シ
タル抗告ニ付キ裁判權ヲ有ス

第三十條　地方裁判所ノ其他ノ權限幷ニ其裁判權ヲ司法
行フノ範圍及ビ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ
訴訟法幷ニ特別法ノ之ヲ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其管轄區域內ノ

區裁判所ト遠隔ナルカ若シハ交通不便ナルカ爲メ至
當ト認ム思量スルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及ビ刑事
ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲メ一若シハ二以上ノ支部
ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ
定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若シハ近隣ノ區裁
判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣
ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及ビ檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域內

ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ネル第二十八條ノ規定ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十五條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其部ニ列席スルコトヲ得ス

其他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十六條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ總テノ事務ノ取扱ヲ指揮分配及ヒ監督ス但檢事局ノ其他ノ檢事ハ事務取扱ニ付テハ何レノ事件トシテ雖モ特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十七條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第三十八條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ノ職務ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルニ在リ

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ

第三十九條　事務ノ分配及ビ結了並ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十五條第二十六條及ビ第二十八條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　右各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支アリテ或ル事件ヲ取扱フ

コトヲ得ス且同院ニ其代理ヲ爲シ能ハサル判事ナキ場合ニ於テ其事件要急ナルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

第四十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告

第三　地方裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第四十八條　控訴院ハ皇族ニ對スル民事訴訟ニ付キ第一審及ヒ第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第四十九條　控訴院ノ其他ノ權限幷ニ其裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ニ依ル之ヲ定ム

第四十五條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十四條　第四十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其五人又ハ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十五條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長ノ權幷ニ其他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十六條

ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十六條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若クハ二以上ノ民事部及ヒ刑事部ヲ設ク

第四十七條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ノ職務ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督スルニ在リ

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク其職務ハ部ノ事務ヲ監督シ其分配ヲ定ムルニ在リ

第四十八條　大審院ノ事務ノ分配幷ニ代理ノ順序ハ毎

年部長ト協議シ大審院長豫メ之ヲ定ム

大審院長ハ次年已レノ居ラントスル部ヲ指定ス可シ

大審院ノ判事差支アリテ或ル事件ヲ取扱フヿヲ得ス

且同院ニ其代理ヲ爲シ能ヒ判事ナキ場合ニ於テ其事件ヲ緊要急ナルトキハ大審院長ハ其所在地ノ控訴院長ヲシテ差支アル判事ヲ代理スルヿヲ得

第四十九條　大審院長ハ何時ニテモ部長若クハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルヿヲ得

第五十條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ

變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十七條ノ規定ヲ適用ス

第五十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其訴訟一切ノ事ニ付キ下級裁判所ヲ羈束ス

第五十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付キ曾テ一若クハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其部ハ之

ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若クハ刑事ノ總部又ハ民事及ヒ刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及ヒ裁判スルコトヲ命ス

第五十三條　大審院ハ左ノ事項ニ付キ裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）第四十條第二號ニ依リ爲シタル判決及ヒ第四十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判決ニ對スル上告

（ロ）控訴院ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メ

タル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪幷ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノヽ豫審及ヒ裁判

第五十四條　前條第二號ニ掲ケタル事件ニ付キ大審院ハ必要アリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲スヿヲ控訴院若クハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クヿヲ得此場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルヿヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十五條　大審院ノ其他ノ權限幷ニ大審院ノ裁判權ヲ行フノ範圍及ヒ方法ニシテ此法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ之ヲ定ムル所ニ依ル

第五十六條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ總テノ事件ハ七人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ七人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

其他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十七條　第五十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合

部ノ判事少クトモ三分ノ二列席參與スル㆒ヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スル㆒又ハ民事及ヒ刑事ノ總部聯合スル㆒ハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ己レ至當ト思量スル㆒ハ總部ニ長タルノ權利ヲ有ス

第五十八條　大審院長ハ第五十三條ノ規定ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付キ大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲナサシムル㆒ヲ得

第五十九條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ノ權並ニ其他ノ檢事ノ權ニ付テハ第三十六條ヲ適用ス

第三編　裁判所及ヒ檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ト爲ルニ必要ナル準備及ヒ資格

第六十條　判事又ハ檢事ト爲ルニハ此法律ニ揭ケタル例外ノ場合ヲ除キ二回ノ競爭試驗ヲ經ルヿヲ要ス

第六十一條　志願者ノ此二回ノ競爭試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格並ニ此試驗ニ關スル總テノ細目ハ判事檢事登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第一回ノ試驗ニ及第シタル者ハ第二回ノ試驗ヲ受クル以前試補トシテ裁判所及ヒ檢事局ニ於テ三年間實

地修習ヲ爲スコトヲ要ス

帝國大學法科卒業生ハ第一回ノ試驗ヲ經スシテ試補ヲ命セラルヽコトヲ得

前項ノ此修習ニ關スル細目モ亦試驗規則中ニ之ヲ定ム

第六十二條　試補ハ前條ニ揭ケタル實地修習ヲ始ムル前忠實ニ天皇ニ仕ヘ職分ヲ盡スヘキコトヲ式ニ從ヒ宣誓又ハ確言ス

五九

第六十三條　司法大臣ハ控訴院長ノ報告ニ依リ試補ノ行狀罷免スルニ足レリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得

此罷免ニ關スル細目モ亦則試驗規則中ニ之ヲ定ム

第六十四條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其修習ノ現ニ監督スル判事ノ指揮アルトキハ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及ヒ地方裁判所ノ受命判事モ亦其附屬ノ試補ヲシテ自己レニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十五條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訴事件トニ拘ハラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記簿ハ記入簿ニ登錄ヲ爲ス事

第六十六條　第二回ノ競爭試驗ニ及第シタル試補ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得

第六十七條　新任ノ判事又ハ檢事ハ缺位アルトキハ之ヲ區裁判所若シクハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若シクハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ缺位アルマテ之ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ執務スルヿヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヰル

第六十八條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局ニ用ヰラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルヿヲ得サルヿ通常ノ代理法ニ依リ難キヿアルトキハ此法律ノ原則ニ從ヒ司法大臣ノ許可ニ因リ其判事又ハ檢事ヲ代理スルヿヲ得

又司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ此等ノ裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ缺位ノ存スル間ハ此法律ノ許スヿヲ限リ豫備判事又ハ豫備檢事ニ其缺位ヲ充タスヿヲ許スヿヲ得

第六十九條　三年以上帝國大學法科教授若シクハ辯護士

タル者ハ此章ニ掲ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試驗ヲ經スシテ試補ヲ命セラルヽコトヲ得

第七十（六六）條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　債務ノ辨濟ヲ終ヘサル顯然タル無資力者及

（身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レ）

ヒ破産者

第二章　判事

第七十（六七）條　判事ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ天皇之ヲ任（勅任又ハ任トシ）ス其任官ノ式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

任官ノ式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條　大審院長ハ勅任判事ノ内ヨリ天皇之ヲ補シ各控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ内ヨリ之ヲ補ス其他ノ判事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第七十（六九）條　何人ト雖モ五年以上判事檢事ヲ（九年以上）ノ者ト帝國大

タル者ハ此章ニ掲ケタル試驗ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得

帝國大學法科卒業生ハ第一回試驗ヲ經スシテ試補ヲ命セラルヽコトヲ得

六六

第七十條　左ニ掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債務ノ辯濟ヲ終ヘサル顯然タル無資力者及

義務ヲ免レ

ヒ破産者

第二章　判事

六七

第七十條　判事ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ天皇之ヲ任ス

勅任又ハ　任トシ

其任官ノ式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

任官ノ式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

六八

第七十一條　判事ノ補職ハ司法大臣之ヲ爲ス

補

九

第七十三條　控訴院長及ヒ大審院ノ部長ノ補職ハ內閣

大審院長　司法大臣

之ヲ爲ス

大審院長ハ天皇之ヲ命ス

勅任

六九

第七十四條　何人ト雖モ五年以上判事檢事又ハ帝國大

九者又ハ五年以上

學法科教授若クハ辯護士タル者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルヽヿヲ得ス

豫備判事豫備檢事ノ勤務ハ前項ノ年限ニ通算ス

第七十五條　何人ト雖モ十年以上判事檢事ヲ帝國大學法科教授若クハ辯護士タル者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルヽヿヲ得ス

豫備判事豫備檢事ノ勤務ハ前項ノ年限ニ通算ス

第七十六條　第七十四條及ヒ第七十五條ニ揭ケタル時期ヲ算フルニハ補職ノ時マテ右列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルヿヲ必要トセス

第七十七條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スヿヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政會ノ會員又ハ政社ノ社員ト爲リ又ハ法律上定ムル所ノ議會ノ議員ト爲ル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トシタル公然ノ職務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其他行政規則ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十八條　本條ノ場合ヲ除ク外判事ハ公務停止ヲ惹起スル懲戒上又ハ刑事上ノ判決ニ因ルニ非サレハ其意

ニ反シテ轉官又ハ轉職轉所又ハ減俸又ハ停職セラレ
免職又ハ減俸セ
又ハ退官セシメラルヽ事無シ但豫備判事タル時及ヒ
補缺ノ必要ナル場合ニ於テ轉職轉所ヲ命セラルヽハ
此限ニ在ラス
前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若クハ其間ニ於テ
法律ノ許ス停職ニ關係アル事無シ
第七十九條　判事身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ
執ル能ハサルニ至リタル時ハ司法大臣ハ控訴院又
ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ休職ヲ命スル事ヲ
得

第八十條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更スル場合又
ハ裁判所ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ之カ爲メ補所ナキニ
至リタル判事ヲ補スヘキ缺位ナキ時ハ司法大臣ハ一
時之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ缺位ヲ待タシムルノ權ヲ
有ス
第八十一條　判事ハ一定ノ俸給ヲ受ク
第八十二條　判事ハ其俸給ノ外裁判事務取扱ノ爲メ上
他ノ報酬ヲ受クルヲ得ス但法律ノ許シタル手當及

賠償ハ此限ニ在ラス

第八十三條　判事ハ退官シタル時ハ恩給法ニ依リ規定ニ從

恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第八十四條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ハラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ勅任又ハ奏任トス

第七十六條及第七十七條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長及檢事長ノ職ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補ス其他ノ檢事ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十六條　檢事ハ公務停止ヲ惹起スル懲戒上又ハ刑事上ノ判決ニ因ルニ非サレハ其意ニ反シテ之ヲ免官スルコトヲ得ス

第八十七條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十八條　檢事ハ其上官ノ命令ニ從フ

第八十九條　檢事總長檢事長及ヒ檢事正ハ其各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

又檢事總長檢事長及ヒ檢事正ハ其管轄區域內ニ於テ

或ル某檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第九十八條　司法警察官ハ已レニ對シ檢事ノ職務上其檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル總テノ命令及ヒ其檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及ヒ內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ執務シ前項ノ命令ヲ受ケ及ヒ之ヲ執行スル者ノ職務ニ任スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第九十九條　裁判所ニ此法律第十一條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及ヒ合議裁判所ノ各部ノ爲ニ少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第百條　地方裁判所ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク控訴院及ヒ大審院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク

區裁判所及ヒ檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其一人ヲ監督書記トス

監督書記及ヒ書記長ハ各其上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス

第九十三條　書記其職務ノ範圍内ニ於テ爲シタル總テノ事ハ既ニ定マリタル事務分配ニ從ヒ他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其効力ヲ失フヿ無シ

第九十四條　書記ノ任補ハ司法大臣之ヲ爲ス

書記長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ之ヲ任ス其補職ハ司法大臣之ヲ爲ス

書記及ヒ書記長ハ一定ノ俸給ヲ受ク

書記及ヒ書記長ノ官等俸給及ヒ進級ノ順序ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

書記及ヒ書記長恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル場合及

ヒ其金額ハ恩給法ヲ以テ之ヲ定ム

第九十五條　書記ニ任セラルヽニハ豫メ試驗ヲ經ルヿヲ要ス

志願者ハ此試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格幷ニ此試驗及ヒ試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關スル總テノ細目ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

書記長ニ任セラルヽニハ少クトモ五年以上書記ノ職務ニ引續キ從事シタル者ニ限ル別ニ高等試驗ヲ經ルヿヲ要セス

第九十六條　書記ニ任セラレタル者ハ缺位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ一時書記トシテ執務スルヿヲ命セラルヽヿヲ得

第九十七條　書記ハ其上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ判事一人ナルトキハ其判事ノ命令ニ從フ

又書記ハ檢事局ニ用ヰラルヽトキハ特別ノ事務ニ付キ判事若クハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其檢事局又ハ判事若クハ檢事ノ命令ニ從フ

若シ此命令カ口述ノ書取ニ係ルカ又ハ書類記錄ノ錄製若クハ變更ニ係リテ其命セラレタル錄製若クハ變更ヲ事情若クハ事實ニ因リ正當ナラスト認ムルトキハ其錄製若クハ變更ヲ爲スニ當リ書記ハ己レノ意見ヲ記シタル說明書ヲ之ニ添フルヿヲ得

其他書記ノ職務及ヒ其事務取扱方法ハ書記ニ關スル規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十八條　合議裁判所長又ハ區裁判所ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所ニ用ヰラルヽ試補ニ書記ノ事務ヲ一時取扱フヿヲ許スヿヲ得

前項ノ此場合ニ於テ試補カ職務上署名スル時ハ特別ノ許可ヲ得テ署名スル旨ヲ記ス

第九十九條　豫備書記ハ事務ヲ取扱ヒ書記ニ同シ

權ヲ有ス但書記規則中制限ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第五章　執達吏

第百條　各區裁判所ニ此法律第九十一條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第百一條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及ヒ之ヲ補ス司法大臣ハ控訴院長ニ其管轄區域內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及ヒ補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

第百二條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其手數料一定ノ額ニ達セサル時保護金ヲ受ク

第百三條　執達吏ニ任セラレ得ルニハ曾テ官吏タルカ又ハ執達吏若クハ書記ノ登用試驗ヲ經テ豫メ執達吏タルノ資格ヲ有スルヿヲ要ス

其他必要ナル資格幷ニ試驗及ヒ試驗ヲ經タル後爲スヘキ修習ニ關スル細目ハ執達吏登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第百四條　執達吏ハ其所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁

執達吏ニ任セラルヽニ必要ナル資格幷ニ試驗ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其職務ヲ行フノ權ヲ有ス

第百五條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ總テ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但書記ヨリ直接ニ若クハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此限ニ在ラス

又執達吏ハ刑事事件ニ付キ警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ掲ケタルモノヲ除ク外其他執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ニ之ヲ定ムル所ニ依ル

九十九

第百六條　執達吏ハ其職ニ補セラルヽ前職務ヲ適實ニ行フ爲メ充分ナル保證金ヲ出スコトヲ要ス

其他執達吏ノ行フ職務幷ニ右保證金ニ關ル規則ノ價額及ヒ性質ニ付テノ細目ハ司法大臣之ヲ定ム

第百七條　執達吏ハ其所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及ヒ其裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及ヒ其書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百八條　廷丁ハ大審院控訴院及ヒ地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ地方裁判所長之ヲ雇ヒ

及ヒ其雇ヲ解ク

第百九條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及ヒ其他司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシムル爲メ之ヲ用ユ

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰル能ハサルトキハ其裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲メ廷丁ヲ用ヰル能ハヲ得

第四編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百十條　開廷ハ裁判所又ハ支部ヲ設ケタル地ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要アリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百十一條　訴訟審問ノ上席及ヒ指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニ
モ亦屬ス

第百十七條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議
ヲ爲シタル時ハ其決議ハ其理由ト共ニ公衆ヲ退カシ
ムル前之ヲ言渡ス此場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡
ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシム可シ

第百十八條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキト雖モ入廷ノ
特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムル
ノ權利ヲ有ス

第百十九條　裁判長ハ婦女兒童及ヒ相當ナル衣服ヲ著

セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其理由ハ之ヲ
訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百二十條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百二十一條　裁判長ハ訴訟審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ
行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ掲ケタル違犯又裁判長ハ其者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノ時マテ勾留スルノ必要アルトトキ認ムルトキハ裁判長之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノ時トキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命ネルカシ又ハ五圓以下ノ罰金若シクハ五日以下ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此處罰ニ對シテハ上告ヲ許ス雖モ控訴ヲ許サス且其所爲カ輕罪若クハ重罪ニ該ルヘキトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十七條　前條ノ規定ニ左ノ變更ヲ加ヘ當事者證人及ヒ鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ此等ノ者ヲ閉廷ヲ待タスシテ即時ニ罰スルコトヲ得

第二　犯人原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ滌除スルマテ其審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十八條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付キ引續キ陳述スルノ權利ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其禁止ハ此行狀ニ對スル懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十九條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲メ第百十六條第百十七條及ヒ第百十八條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事ヲ爲シ又ハ命令ヲ受ケ困難ナル執務スル判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其命ヲ受ケタル試補カ命令ヲ爲シタル
トキハ其判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若シクハ刑事支部
ニ於テ右ノ異議ヲ裁判ス命キ因リ執務スル判事又ハ
其命ヲ受ケタル試補カ命令ヲ爲シタルトキハ其判事ニ
命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十條　第百十九條第百十八條及ヒ第
百十九條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記
錄ニ之ヲ記入シ及ヒ其理由ヲ記ス

其所爲カ重罪若シクハ輕罪ニ該ルヘキカ又ハ懲戒上罰
スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入ス裁判長ハ其事

件ヲ更ニ裁判スル權アル官廳ニ報告ヲ爲スヘシ

第百十條　判事檢事及ヒ裁判所書記ハ公開シタル
法廷ニ於テハ一定ノ職服ヲ著ス

右開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服
ヲ著スルヿヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ヒ
當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アル
トキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヒルヿヲ要スル場
合ニ於テ之ヲ用ヒ

第百十三條　通事ノ任命及ヒ使用幷ニ訴訟手續上其行フヘキ職務ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ發ス

第百十四條　通事ノ用ヲ容易ニ得ルヲ能ハサルトキハ書記ハ相應ニ其言語ニ通ヒタルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルヽヿヲ得

第百十五條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ利害ノ關係ヲ有スル總テノ人及ヒ其訴訟ノ審問ニ參與スル總テノ官吏カ或ル外國語ニ通スルトキハ裁判長便利ト認ムル場合ニ於テ忠量スルトキハ其外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スヿヲ得但其審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及ヒ言渡

第百十六條　合議裁判所ノ裁判ハ此法律ノ規定ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及ヒ之ヲ言渡ス

第百二十七條　三日ヲ超過シテ繼續スヘキヿ見込アル刑事ノ審問ニ於テハ裁判所長ハ之ニ立會ハシムル爲メ補充判事一人ヲ命スヘキヿヲ得此補充判事ハ其審問中或ル判事カ疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルヿヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及ヒ裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十八條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但豫備判事

及ビ試補ノ傍聽ヲ妨ケス（許スコトヲ得）

此評議ハ其裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス（判事ノ）其ノ

此評議ノ議事（顛末）幷ニ各判事ノ意見及ビ多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密（秘）ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十九（二四）條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始メトシ裁判長ヲ最終トス官等同シキトキハ年少ノ者ヲ始メトシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始メトス

第百三十（二五）條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付キ判事ノ意見三說以上ニ分レ其說ノ各過半數

ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事事件ニ付キ其ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百三十（二六）條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付キ自己レノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及ビ檢事局ノ事務章程

第百三十（二七）條　裁判所及ビ檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及ヒ檢事長ハ其規則ニ依リ各自管轄區域內ノ裁判所及ヒ檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱及ヒ成ルヘク統一ノ取扱ニ付キ殊ニ裁判所及ヒ檢事局ノ開廳時間及ヒ開廷ノ時日ニ付キ訓令ヲ發ス

大審院ハ自ヲ其事務章程ヲ定ム但之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度休暇及ヒ休日

第百三十二條　司法年度ハ通常ノ曆年ニ從ヒ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

第百三十三條　裁判所ノ夏季休暇ハ七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル

第百三十五條　休暇中ハ左ノ事件ノ外既ニ著手シタル總テノ民事訴訟ヲ中止ス且新ナル訴訟ニ著手セス

第一　爲替手形若シクハ約束手形其他ノ流通證書ニ關スル請求

第二　船舶又ハ運送賃又ハ積荷ニ對スル請求

第三　財產差押事件

第四　住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若シクハ修繕ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若シクハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸

人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第五　養料ノ請求

第六　保證ヲ出サシムルノ請求

第七　取掛リタル建築ノ繼續ニ關係ル事件

第八　其他（前數項ニ掲ケタルモノヲ除ク外）區裁判所ノ判事ニ於テ又ハ民事訴訟法ノ要ス（定ム）ル所ニ從ヒ休暇部若ハ休暇部長ニ於テ直ニ著手スル（ヘキ緊）コトヲ正當トスルニ足レル要急ノモノト思量（認メ）タル請求若ハ事件

第百三十六（二十九）條　休暇中ニ（ニ拘ラス）雖モ刑事訴訟非訟事件判決執行破産事件幷ニ民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フ

コトヲ得ル（ヘキ）總テノ訴訟ハ之ヲ停止スル（コトナ）ヿ無シ

第百三十七條　合議裁判所ニ於テハ休暇中事務取扱ノ爲メ休暇部ト稱スル一若ハ二以上ノ部ヲ設ク

休暇部ノ組立ハ休暇ノ始マル前裁判所長之ヲ定ム第二十六（三）條ノ規定（程）ハ此部ニモ亦之ヲ適用ス

二人以上ノ判事ヲ置キタル區裁判所ノ休暇事務取扱方法ハ監督判事之ヲ定ム

第百三十八（一）條　裁判所ハ左ニ掲ケタル日ヲ除キ年中毎日開廳ス

第一　一月一日

第二　紀元節
第三　天長節
第四　日曜日
第五　勅令又ハ閣令ヲ以テ休日ト定メタル日

第六章　法律上ノ共助

第百三十九條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

場合ト方法ニ依リ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

右法律上ノ輔助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百四十條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱

フヘキ事務ニ付キ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百四十條　裁判所書記課モ亦其權内ノ事件又ハ其配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付キ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第五編 司法行政ノ職務及ヒ監督權

第百三十五條 合議裁判所ノ長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

合議裁判所ノ長區裁判所ノ判事若クハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ヲ司法大臣ノ由テ以テ右職務ヲ行フノ官吏トス

第百四十三條 前條ニ掲ケタル職務ハ左ノ方法ニ依テ執行ス

第一 司法大臣ハ總テノ裁判所及ヒ檢事局ヲ監督

第五編 司法行政ノ職務及ヒ監督權

第四十二條　此法律ニ依リ特別ニ司法大臣ノ行フヘキ要スル事務ノ外尚ホ司法事務ノ適當ニ全國ニ行ハルトヤヲ監視スルヲ以テ司法大臣ノ職務トス

合議裁判所ノ長區裁判所ノ判事若クハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ヲ司法大臣ノ由テ以テ右職務ヲ行フノ官吏トス

第百四十三條　前條ニ掲ケタル職務ハ左ノ方法ニ依テ執行ス

第一　司法大臣ハ總テノ裁判所及ヒ檢事局ヲ監督

スルノ權ヲ有ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第三　控訴院長ハ其控訴院及ヒ其管轄區域內ノ總テノ下級裁判所ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第四　地方裁判所長ハ其裁判所若クハ其支部及ヒ其管轄區域內ノ總テノ區裁判所ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ其裁判所所屬ノ書記及ヒ其他ノ官吏（判事ヲ除ク）ヲ監督スルノ權ヲ有ス

執達

第六　檢事總長ハ其檢事局及ヒ總テノ下級檢事局ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第七　檢事長ハ其檢事局及ヒ其局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域內ノ總テノ檢事局ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第八　檢事正ハ其檢事局及ヒ其局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ總テノ檢事局ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第百四十三條　前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ權ヲ含ム

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ

事項ヲ包ス

付キ其注意ヲ促シ幷ニ限リタル時間ニ適當ニ其事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル權

第二　官吏ノ職務施行上ト否トニ拘ラス其地位ニ不相應ナル行狀ニ付キ之ニ諭告スル權但此諭告ヲ爲ス前其官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムルヲ要ス

第百四十五條　第十八條及ヒ第九十條ニ掲ケタル官吏ハ第百四十三條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ含ス

第百四十六條　裁判所若クハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其職務ヲ行ハサル者又ハ其行狀其地位ニ不相應ナル者ニ付キ第百四十四條ヲ適用シ能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百四十七條　前數條ニ掲ケタル司法行政ノ職務及ヒ監督權ハ判事若クハ檢事其官吏タルノ資格又ハ其他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付キ其請求ヲ滿足セシムル爲メ之ヲ執行スルヲ得ス其請求ハ通常ノ裁判手續ヲ以テ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ要ス

第百四十八條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル總テノ抗

告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滯若シクハ拒絶ニ對スル如キ抗告ハ總テ此編ニ掲ケタル司法行政ノ職務及ヒ監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十九條　裁判所及ヒ檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若シクハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關スル事項ニ付キ意見ヲ表述フス

第百五十四條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表シ其利益ヲ防護ス

第百五十四條　此編ニ掲ケタル前各條ノ規程ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ裁判上執務スル判事ノ獨立ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

補則

第百四十六條　警察官ノ行フ司法權ハ違警罪事件ニ限リ但シ此ノ權ハ法律ニ依リ裁判所ノ審問ヲ請求スルコトヲ妨ケス